

ウイルス学会関連研究集会紹介

1. 第70回日本ウイルス学会学術集会のご案内

西村 秀一

本年9月26日(火)より3日間、「流行不易～変わるものの変わらぬもの～」をテーマに、第70回日本ウイルス学会学術集会を仙台国際センターにおいて開催します。学術集会の仙台での開催は1974年以来約50年ぶりであり、また第70回催の2023年は、仙台で発見されその後ウイルス学を牽引してきた「センダイウイルス」の発見から70年目の節目の年です。現在それを記念した特別シンポジウムを含め、意義ある集会にすべく東北のウイルス学関係者が力をあわせ鋭意準備中です。

以下に本集会の方針・特色・試みを紹介します

I 学会員の交流を深め、議論を活発化させるため

- 1) すべて対面形式の会にします
- 2) 一般演題にはすべてポスターの掲示もお願いし、ポスターは張り替え無しで、期間を通して掲示していただきます
- 3) 対面を生かし、ポスターでの議論を活発化するために、ポスター会場を広くとり、掲示時間を長めに設定し、ミキサーも行ないます

II 参加者の便宜を図り、楽しめ・学べるように

- 1) 抄録は、紙ベースの冊子とpdfファイルによる電子的簡易抄録の2本立てにします
紙冊子には電子ファイルにない良さがあります。今回はそれを生かすことにしました。
- 2) 魅力ある講演・シンポジウム・セミナーをそろえました

- ・特別講演と市民講座「生命誌の中のウイルス」JT生命誌研究館名誉館長 中村桂子先生
 - ・教育講演1「酸化ストレス応答の分子基盤と病態」東北メディカル・メガバンク機構 機構長 山本雅之先生
 - ・教育講演2「抗がんウイルス療法製品G47Δの開発」東大医科研 先端医療研究センター教授 藤堂具紀先生
 - ・AMED共催シンポジウム「ワクチン開発のイノベーション：世界の研究リーダーからの視点」
 - ・センダイウイルス70年記念シンポジウム「センダイウイルス研究の歴史と展望」
 - ・その他のシンポジウム
「ウイルスたちの生きざま-その起源と分化」
「エアロゾルのダイナミズムと空気感染」
「ひろがるウイルス学」
 - ・ほかに3日間に8つの共催ランチョンセミナーを予定しています
- 3) パーティションの設置や手やマイクや環境のアルコール消毒等、意味のないコロナ感染対策は、いっさいいたしません。

III ウイルス学会の次世代のために

- 1) 学生さんたちの参加を促す経済的負担軽減策として、学部学生と大学院修士課程学生の事前登録の参加費を無料にします
- 2) 若手の優秀な発表を評価し表彰します

みなさま、この9月、仙台の地でお待ちしております。是非お越しください。

第70回日本ウイルス学会学術集会会長 西村秀一 拝

連絡先

〒983-8520

宮城県仙台市宮城野区宮城野 2-11-12

国立病院機構仙台医療センター

臨床研究部ウイルスセンター

TEL: 022-293-1173

FAX: 022-293-1173

E-mail: 113-vrs.center@mail.hosp.go.jp

第70回
日本ウイルス学会
学術集会

The 70th Annual Meeting
of the Japanese Society
for Virology

流行不易～変わるもの変わらぬもの～
Cores and Developments in Virology

会期 | 2023年9月26日(火)～28日(木)
会場 | 仙台国際センター 〒980-0856 仙台市青葉区青葉山無番地
URL: <http://www.aobayama.jp/>
会長 | 西村 秀一 国立病院機構仙台医療センター
本会事務局 | 独立行政法人国立病院機構仙台医療センター
〒983-8520 仙台市宮城野区宮城野二丁目11番12号 TEL: 022-293-1111 (代表)



本集会のポスター そのデザインについて

本集会のテーマ，“流行不易～変わるもの変わらぬもの～”，これは松尾芭蕉の不易流行という有名な言葉をもじったもので，ウイルス学の応用関連の展開と科学の芯となるような普遍的研究を表しています．その二つを象徴する版画絵を小野竹喬の「奥の細道句抄絵」から選びました．変わるものの象徴として初夏の紅花を，変わらないものの象徴として海に沈む夕日を選びました．奥の細道には，本会が東北の地で東北一円の先生方の力をあわせて開催できることへの謝意も込めています．

会場となる仙台国際センター

仙台市営地下鉄東西線の T04 の国際センター駅を降りてすぐです

